国内外大学受験セミナー 多様な進路の可能性を知ろう

2022年7月10日（日）
神戸山手女子中学校高等学校 講堂

昨年始まった大学入学共通テスト、今年から変わった高校の学習指導要領、中央教育審議会が掲げた「令和型学校教育」という指針。これらにより、大学受験を取り巻く状況が様変わりしている。どう進路を選択し、大学受験に臨めば良いのか悩む高校生は少なくない。その一助になればと、3人の教育専門家がこれからの大学受験に関してレクチャーを実施。海外大学への進学、国内大学の状況、そして令和時代の教育について詳しく解説を行った。

第1部 進学先は世界から選ぼう

株式会社アップ　英語館
天藤 崇 氏

15年間国内大学受験向けの英語指導に従事し、現在は海外大学進学サポートを行う天藤氏。セミナー冒頭、日本の大学の現状を説明した。

「Times Higher Education」が発表した2022年度の世界大学ランキングでは、1位がイギリスのオックスフォード大、2位がアメリカのハーバード大で、日本は東大が35位、京大61位と大きく差をつけられている。日本の大学がいかに魅力を失っているかが一目瞭然だ。

海外に目を向けると、アメリカには4000校もの大学がある。海外への進学は困難だと思われがちだが、実際は思うほど難しくはないと話す。

「海外へ進学する生徒と聞くと、将来に対し明確なビジョンを持ち、特別に頭が良く、世界レベルな活動や受賞歴を持っており、特別に裕福な家庭に生まれ育ち、海外での生活経験などで並はずれた英語力を獲得した人というイメージを抱きがちですが、必ずしもそうではありません」と天藤氏。

まず、海外は日本のようにテスト至上主義の延長戦上に大学は存在せず、高校の成績や活動歴を重視する。そのため、教科の勉強ばかりに時間を使うのではなく、小さなものからで良いから、興味がある課外活動を見つけ、それをコツコツと継続していく生活リズムの構築が肝要とアドバイスした。

「アメリカの大学に学科試験はありません。学力については学校の成績で見るというスタンスです。よって、何より大切なのは学校の成績。トップ大学を目指すなら、学校の成績は5段階評価の4・5以上を目指しましょう。あとは、英語力です。自分が英語圏の大学で学んでいけるだけの英語力を持つことを証明しなければなりません。その意味で、TOEFL100点は必達目標です」

そして話はアメリカ大学の学費へ。私立は年5万1690ドル（約698万円）。公立は年3万9510ドル（533万円）が平均額。ともに寮費や食費を含んだ金額だ。

株式会社アップ
英語館 天藤 崇 先生

「確かに学費は高いですが、その分奨学金制度が充実しています。学部入学生に対しても日本学生支援機構をはじめ、多数の給付型奨学金制度が揃っており、その数は増え続けています。さらに大学が給付する奨学金や授業料の減免措置もあります。給付を受けるには相応の成績が必要ですが、挑戦してみる価値はあります」

最後は英語の学習法について。海外大学進学に向けて臨むTOEFLの受験において特に重要なのはリスニングであり、これができないと100点への到達は難しいと強調した。リスニングは「精聴」（ネイティブの発話を聴いて全文を書き取り（＝Dictation）、ネイティブのタイミングに合わせて音読（＝Overlapping）、スクリプトを見ずにネイティブの発話を追いかけるように音読（＝Shadowing）といった方法を駆使しつつ、精密に聴くトレーニングをすること）と「多聴」（1～5分の素材を聴いて要旨をまとめるトレーニングをすること）のコンビネーションではじめて向上するとアドバイスした。

第2部 上級学校進学に向けて求められること

株式会社ベネッセコーポレーション
大阪支社　支社長 岡安 亮 氏

続いて、ベネッセコーポレーションで長らく高校教育支援に携わってきた岡安氏が登壇。まずは受験人口の減少や新型コロナウイルスの影響、大学入学共通テストにより、入試環境が変化したことを説明した。

「2015年に国立大学協会が公表した『国立大学の将来ビジョンに関するアクションプラン』では、総合型、学校推薦型の選抜を入学定員の30％まで増やす目標が掲げられました。その結果、総合型、学校推薦型選抜の実施校が増えています」と指摘した。

総合型選抜（旧AO入試）は、意欲、活動歴、学力の総合面で判断する。試験は面接、小論文、志望理由などを課せられ、社会に出て何をしたいのか、そのために何を学びたいのかという動機が重要だ。学校推薦型は学力に加え、高校の成績で判断。学校長推薦や基準以上の評定平均が必要となっている。そして一般選抜。こちらは国公立大の場合、大学入学共通テストと個別試験で判断するが、近年は私立大でも共通テストを使う大学が増えている。

「いずれも合否を分けるのは英語。なぜなら、英語は合否偏差値の差が大きい科目であり、英語の配点が大きい大学が多いのが現状です。基本は日々の授業。その延長線上に大学入試は存在しています」

大学共通テストは、ほぼ100％が教科書から出題されており、半分は基礎問題。そのため基礎を定着させるのが肝要。加えて共通テストは朝9時から夕方6時過ぎまで、2日間実施される。このスケジュールを乗り切るためには、何よりも集中力が必要である。この集中力は日々の授業でしか養えないと付け加えた。

株式会社ベネッセコーポレーション
大阪支社　支社長 岡安 亮 氏

「受験に向けて何をやるべきか。まずは日々の小テストや定期テストを解き直して知識を定着させる。模擬試験も同様。こうすれば確実に成績は伸びていきます。常に満点を取り、同じ箇所を二度と間違えないようにする。そして内容を他の生徒に説明できるレベルにまで持っていくことで、理解度は深まります」

第3部 令和の日本型私学を考える

関西国際大学 客員教授
神戸山手女子中学校高等学校 校長
平井 正朗 氏

平井校長は、文部科学省の『新時代の学びを支える先端技術活用推進方策』や『令和の日本型学校教育の構築を目指して』を概観した後、勤務校の学校改革を事例にして、今後の私学のあり方について言及した。

社会の在り方が急激に変化し、予測困難な時代、教育現場では、特別支援教育、外国人児童生徒、貧困、いじめ、不登校、学習意欲の低下など、対応しなければならない問題が山積している。子どもたちを取り巻く環境は刻々と変化し、多様化が進む今だからこそ、「誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学び」と「子どもの力を最大限に引き出すこと」が不可欠であり、そのためにはICTを基盤とした先端技術や教育ビッグデータの効果的な活用がポイントになる。そして、「令和の日本型学校教育」とは、教育振興基本計画の理念継承、働き方改革の推進、GIGAスクール構想の実現、新学習指導要領の着実な実施を基盤に、個別最適な学びと協働的な学びを組み合わせ、それを「チーム学校」が支える視点が重要と論究した。

関西国際大学 客員教授
神戸山手女子中学校高等学校 校長
平井 正朗 先生

「本校の個別最適化のツールは、設定された時間に教員と生徒が双方向的に授業を進める同期型オンライン学習とEdTech教材に生徒が自らアクセスし、自学自習する非同期型オンライン学習を組み合わせたもの。同時に、カリキュラム・マネジメントを通じて、各教科の本質的な理解を図りつつ、産学協働の探究学習に協働的な学びをブレンドしている。最重視しているのは、背景知識を強化し、論理的思考力を鍛え、課題発見・解決力を高めることによって学院の方針である『未来型グローバルリーダーシップ』を育成すること」と結んだ。